講演

第41回 県幼小中高PTA研修大会

脳を知って「やる気」を引き出す

～脳科学からみた子どもたちの成長と未来～

東京大学　薬学部　教授　池谷　裕二 氏

脳にとっての成長とは、心、そわくわくすることであり、**やる気**とはどういうイメージになるのかということを話していきたいと思います。

脳の話というと難しいと思われがちですが、その知能指数を考えるとき、アルフレッド・ビネーが科学的に頭がいいとはどういうことかを考えた。脳の能力は①論理力（数学）②言語力（国語）、もう一つが③熱意なんです。この三つの中では熱意のことを皆さん格下に見ていませんか。「やれば出来る」という言葉ですね。言葉で言うのは簡単ですが、実はなかなかそうはいかない。

脳の中でどこが一番良いか。脳のどこでやる気がでるか。側坐核が反応しているから、やる気の場所、やる気がでている時、側坐核を上手に活性化することもテクニックもうられて上がる。活性化できた人は誰でも楽しいことを想像したら側坐核があがって気ついたらやる気になった。昔の楽しかったエピソードを思い出すことを一年続けると性格が明るくなり、気分が前向きになりストレスが減る。一年も続けたら性格がポジティブになる。コツはしっかり思い出すことです。

脳は作業すると活性化する。作業興奮という言葉がある。作業興奮とは、やる気の出る方法ではない。やる気の出る方法ではなくできる人はやる気でなくできる人だ。できる人は時間が足りないから、やる気が足りないと思っている人はできない。

今後、今の子どもたちがどんな世界ができても柔軟にたくましくいきるためには、やる気、好奇心、適応力、わくわくする熱意が必要です。

熱意とは見えない学力で あり、学校の授業の科目にはありません。熱意とは知ることを楽しむ好奇心、わくわくすることである。

人間だけでなく動物も同じです。ネズミ実験しました。どうして学習能力に差ができるのか、生まれた後なにが違うかけになるのか。**答えは初期の内に何回失敗したか。判断に要した時間、錯誤にさしかかったとき「同じ失敗でもそれまでにいくら考えたかが大切。じっくり考えて失敗したが一番良い。**熱意が大事であるのは、脳のどこでやる気がでるか、側坐核が反応しているから、やる気の場所、やる気がでている時、側坐核を上手に活性化することもテクニックもうられて上がる。

▲熱意とは知ることを楽しむ好奇心、わくわくすること

池谷　裕二氏　プロフィール

1970年生まれ。1998年に東京大学にて薬学博士号を取得。2002～2005年にコロンビア大学（米ニューヨーク）に留学をはさみ、2014年より現職（東京大学薬学部教授）。専門分野は神経生理学で、脳の健康について探究している。また、2018年よりERATO脳AI融合プロジェクトの代表を務め、AIチップの脳移植によって新たな知能の開拓を目指している。文部科学大臣表彰 若手科学者賞（2008年）、日本学術振興会賞（2013年）、日本学士院学術奨励賞（2013年）などを受賞。著書に『海馬』『記憶力を強くする』『進化しすぎた脳』などがある。

▲会場から感謝の拍手

参加者アンケート一部紹介

講演

- 先生の話が楽しくてひきこまれてしまいました。PTAだけでなく子どもたちにも是非聞いてほしいと思いました。
- 最後まで大変勉強になりました。笑顔やまじめことを子どもたちや主人に伝えて人生を豊かにしたい。
- 自分の意識がくつがえる大きな発見があった。大変おもしろくかつ勉強になった。納得のいくことばかりで早速家に帰り子どもたちと話したいと思います。有意義な時間をありがとうございました。

高校生発表

- 学校の枠を超えて、地域の学校単位で地域の課題と向き合う活動素晴らしいと感じました。
- 同じ市内の高校が集まりこのような活動ができるのは、先生方の尽力のたまものだなと思いました。
- 高校生の方々から地域を知ることと聞くことができるだけでも大変嬉しく課題を見つけて、改善に向けて動くことは大人でもできない中で、素晴らしい取組だと感じました。
- 四校それぞれの生徒が問題に向かって、協力、連携し意欲交流できる活動はとても興味深いものでした。高校生方からは伝えて人生を豊かにした。

PTA発表

- コロナ禍で活動ができなくなったPTA再始動されるとの事、再始動されいました。PTAらしい地域の皆さんの協力があってこそだと思いました。
- 保護者が中心となり、子どもたちのために色々な活動を企画運営されていて実践力のある組織だと感じました。学校行事等への協力体制も考え手本になりました。
- 学校の枠を超えて、地域の学校単位で地域の課題と向き合う活動素晴らしいと感じました。
- 子どもたちの事を一番に考えながら、地域とPTAの信頼関係が重要であると再認識できました。「スクールガード」は参考にしたいです。小学校で取り入れてもらえるよう働きかけていきたいと思いました。

教育感雑

困った時は人を頼り、受けた恩を次の世代へと送る

岡山県教育庁生涯学習課　課長　滝澤　幸隆

昨年十一月二十日「岡山県家庭教育応援の日」に、社会全体で子育てや家庭での教育を応援していく気運の醸成に向けて、家庭教育応援フォーラムを開催しました。

午前の部では、育児漫画家・イラストレーターの高野優さんによるご講演、午後の部では、各地域で子育てや家庭教育などの支援を行っている方々がつながり、連携・協力することで活動の充実が図られるよう「広げようーつなげよう！応援の輪!!」をテーマに、パネルディスカッションや、子育て支援・家庭の団体による情報交換会を開催し、延べ約百七十人の方にご参加いただきました。

高野さんのご講演は、「子は育ち、親も育つ。楽しまなくっちゃもったいない！」と題し、三人の娘さんの子育て奮闘記をイラストを描きながらお話しされるスタイルが図られるようで、笑いあり、涙あり、厚みを抜いて聞くことができました。

臨床心理士からのアドバイスで思春期の娘に対する親方が変わったお話や、家事・育児・仕事の全てを一人で抱えこみ苦しんでいたという方、次女のリリピリ先の理容療法士の言葉で救われたお話、そして自らの子ども時代を振り返り、担任の先生や地域の人々から深い愛情を受けて育ったことなどをお話しされたあと、「大変な時には、人に頼ったり支援を積極的に受けて迷惑ではない、「受けたり支援を積極的に受けて迷惑ではない、「受けられないい」とまとめられました。そして、「子ども一人が育つには、一つの村が必要だ」というアフリカの諺と、「人に迷惑をかけてもいい、その代わり迷惑をかけられたら許しなさい」というインドの教えを添えて、講演を締めくくられました。

講演後の参加者アンケートでは、「我が子の思春期が楽しみ！」「悩みが多く、体験談は参考になった」「周りに助けを求めていいことがわかった」「子育情を頑張っているみたいという気持ちが湧いてきた」など、講演の題目にもある高野さんの思いが、参加者の皆さんに届いたのではないかと思います。

「コロナ禍も相まって、つながることが難しくなっている昨今、困った時には人を頼ること、受けた恩は次の世代へ送れればいいこと」などを、本当に大切なお話を聞くことができました。みなさんは、困った時、人を頼れていますか？子育てが一段落されたお方は、自分にできる「恩送り」を探してみようと思います。

第24回 県PTA広報紙づくり研修会

～広報紙による地域に発信する力を育てるために～

紙面づくりの基本を学ぶ

令和四年七月五日（火）にピュアリティまきびび県PTA広報紙づくり研修会を開催しました。

当日は、「地域に発信する力を育てよう」をキャッチフレーズに山陽新聞社の記者の方を講師に招日かけて研修しました。研修内容は企画・編集・レイアウト・見出し・写真の書き方・写真の撮り方・選び方等を学び、実際にレイアウトして制作体験をします。

参加者はいつの間にか会話が弾み協力しながら楽しく時間が過ぎ意義のあるひとときとなりました。PTA広報紙は学校と保護者・子どもたちをもちろん地域との絆を深める大切な存在です。

来年度も魅力ある広報紙づくりをめざし、広報紙研修会を開催する予定です。各単位PTAから多くの参加者をお待ちしております。

グループに分かれて制作中

制作した作品をお互いに講評し合う

お知らせ　第24回 岡山県PTA連合会推進事業

岡山県PTA広報紙コンクール 募集

募集案内を令和5年1月に各単位PTAにお届けしています。

応募先	〒700-0081　岡山県PTA連合会事務局 岡山市北区津島東 1-4-1（岡山県青年館内） TEL 086-254-4885　FAX 086-254-6797
応募締切	各単位PTAより令和5年3月10日(金)までに　県PTA連合会事務局　必着
広報紙集	優秀広報紙集2022は、令和4年6月に各単位PTAに一冊お届けしています。